

「地域おこし協力隊」を 紹介します

UIターンコーディネーター

たいら まゆみ

[移住定住促進担当] **平 真弓**さん

町は4月11日、地域おこし協力隊「紫波タウンイノベーターズ」の辞令交付式を行い、茨城県つくば市出身の平真弓さんに辞令を交付しました。平さんは「UIターンコーディネーター（移住定住促進担当）」として、インターネットなどを活用し、町の魅力を効果的に町外にPRするほか、町外の人との交流を生み出すさまざまなイベントを通じて、新たな移住・定住の促進を目指します。まちづくりに寄せる平さんの思いをお聞きしました。



町の「地域おこし協力隊」が2人体制になりました。リノベーションまちづくり推進担当の石澤康次さん(左)とUIターンコーディネーターとして移住定住促進を担当する平真弓さん(右)



アウトドア好きで、風に吹かれながらパソコン作業をすることも。(上の2枚の写真は平さん撮影)

はじめまして。「たっしー」こと、平真弓です。町の風景と雰囲気にも一目惚れして、生まれ育った関東を離れやってきました。町の魅力をどんどん発信し、皆さんと一緒に町を盛り上げていきたいと思っています。おしゃべりが大好きなので、ぜひぜひお話を聞かせてください!

■地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊は、平成21年に国がつくった制度です。都市部に在住し、地方への移住や地域社会への貢献に関心を持つ人が、過疎地域などの条件不利地域に住民票を移し、地域に暮らしながら地域活性化や都市住民の移住・交流の支援などのさまざまな地域協力活動を行います。一連の活動を通じて、地域力の維持・強化を図るとともに、隊員の定住・定着を図ることも目的としています。活動期間はおおむね1年以上3年以下です。

■どんな人がなるの？

「地域おこしに関わりたい人」「地方に暮らして自分の夢を実現したい人」など、地域活性化に意欲のある人。

地域おこし協力隊導入の効果 「地域おこし協力隊・地域・地方公共団体の三方よし」の取り組み

地域おこし協力隊

- 自身の才能・能力を生かした活動
- 理想とする暮らしや生きがい発見

地域

- 斬新な視点(ヨソモノ・ワカモノ)
- 協力隊員の熱意と行動力が地域に小さな刺激を与える

地方公共団体

- 行政ではできなかった柔軟な地域活動支援
- 住民が増えることによる地域力の維持・強化

インタビュー

[平さんのプロフィール]茨城県つくば市出身、日詰地区在住の24歳。千葉大学法経学部総合政策学科卒業後、商業施設管理会社に入社し、仙台事業所で事件・事故・急病人対応、テナントスタッフの集合研修などに従事。町の地域おこし協力隊として4月11日付けで着任。趣味はカメラ片手にぶらり旅。自身の町での暮らしについて発信するブログ「しわぐらし」を更新中。

しわぐらし 検索



▼町にどんな印象をもちましたか。

前の職場の仲間と一緒に日帰り観光でオガール地区に来たことがあります。良く晴れた日に青空の下を歩く子ども連れの家族。お母さんと緑の芝で遊ぶ子どもたち。あの日のことを鮮明に覚えており、印象がとても良かったです。第一印象はオガールのことだけでしたが、4月に移住してからは、地域を見て歩きました。地域で頑張っているイノベータータイプ(革新的)な人が多いと感じました。

▼なぜ地域おこし協力隊に興味をもったのですか。

私には「保育園をつくりたい」という

夢があります。未来を担う子どもたちを育てる教育こそが最も重要で、革新が必要だという思いがあり、教育の世界へ進む前に、実社会でいろいろな経験を積みたいと考えています。

大学卒業後に入社した会社には、イベントの企画をしたいという思いで入りました。しかし、働くうちに社内では希望が叶わないと分かり、徐々に転職を考えはじめました。より教育に近い世界で働くことを考えていたときに、インターネットで町が地域おこし協力隊を募集していることを知りました。転職かつ移住ができ、さらに仕事をしながら田舎暮らしができるということは、自然の中で遊べる保育園づくりを考えていた私にとって、理想の選択でした。同時に、初めてオガールに来たときに見た風景が思い起こされました。

実は、地域おこし協力隊のことを知った時点では、すでに募集期間は終わっていたのですが、今年の1月に再募集が行われていることに気付きました。その後、ホームページで町の情報を調べましたが、町のことを知

れば知るほど思いが募り、いてもたってもいられなくなりました。レンタカーで町を訪ね、担当者に会って自分の思いを伝えました。

▼U-1ターンコーディネーター(移住促進担当)として、どんなことをしたいですか。

私自身も町のことは何も知らないところから始めて、町の魅力を知り、移住するまでになりました。移住・定住促進というテーマは、私にぴったりです。まずは外の視点から見た町のおすすめスポットを多くの人に伝えることから取り組みたいと思っています。現在、「たっしー@紫波町」としてインスタグラム(Instagram)やツイッター(Twitter)で情報発信に取り組んでいます。「しわぐらし」というブログでも情報発信中です。ぜひご覧ください。

▼今後の目標を教えてください。

教育の根底には地域のコミュニティづくりがあります。地域コミュニティの理想は、地域の子どものを地域で育てることができること。夢の実現に向かいながら、地域の課題解決に貢献したいと思います。